

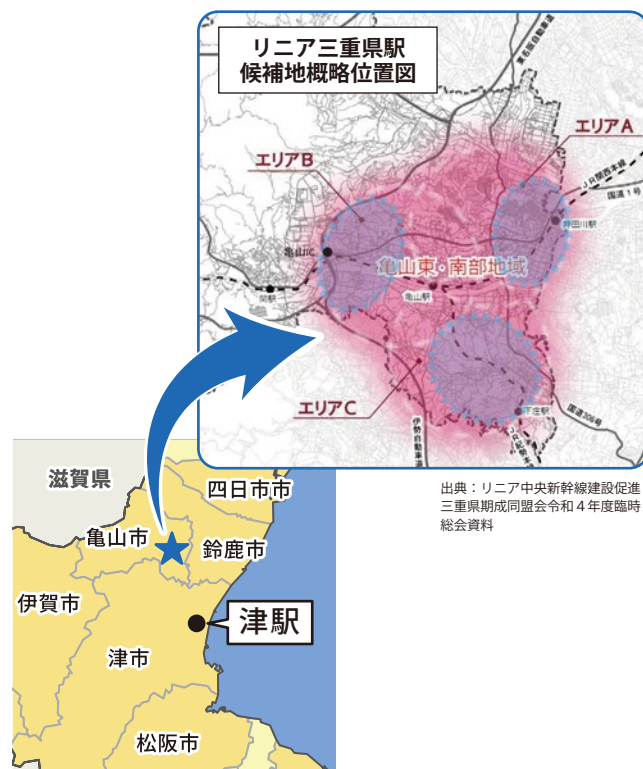
II 全線開業に向けた今後のスケジュール

昨年11月に三重県や県内市町、経済団体などで構成される「リニア中央新幹線建設促進三重県期成同盟会」から、ＪＲ東海に対し、リニア三重県駅として、右図に示す亀山市内の3つのエリアを検討し、ルート・駅位置を提案するよう要望が出されました。

今後、事業主体であるＪＲ東海で環境影響評価※着手に向けた準備が進められ、計画段階環境配慮書の中で3km幅の概略ルートと直径5km円の概略駅位置が、そして環境影響評価準備書の中で具体的なルートと駅位置が、それぞれ示される予定となっています。

その後、関係する府県知事等からの意見を踏まえた上で最終的な環境影響評価書が作成され、国土交通省から工事実施計画の認可を受けた後、最短で令和19(2037)年の全線開業に向け、名古屋・大阪間の建設工事が着工される予定となっています。

※環境影響評価とは、開発事業の内容を決めるに当たって、その事業が環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが調査・予測・評価を行い、その結果を公表して一般の皆さんや地方公共団体などから意見を聞き、それらを踏まえて環境の保全の観点からよりよい事業計画を作り上げるための仕組みです。



II リニア開業における三重県への効果

アクセス

リニア中央新幹線の開業で、国内移動における大幅な所要時間の短縮が実現し、全国各地へのアクセスが飛躍的に向上します。

経済

三重県から全国各地への所要時間が短縮されることにより、人口減少率の緩和や事業所数・雇用者数の増加が見込まれます。

災害時

「リニア中央新幹線」と「既存の新幹線・高速道路ネットワーク」で、災害リスクが分散されます。

暮らし

都市部への通勤・通学や二地域居住等が可能になり、新たなライフスタイルの誕生が見込まれます。また、ＵＩＪターン移住など三重県への移住者の増加も期待されます。

観光・交流

全国各地から観光や通勤・通学などさまざまな目的で三重県を訪れる人や訪問回数が増加し、人や情報の交流が活発になり、新たなイノベーションの創造が見込まれます。

リニアを生かそう！
沿線地域のまちづくり

